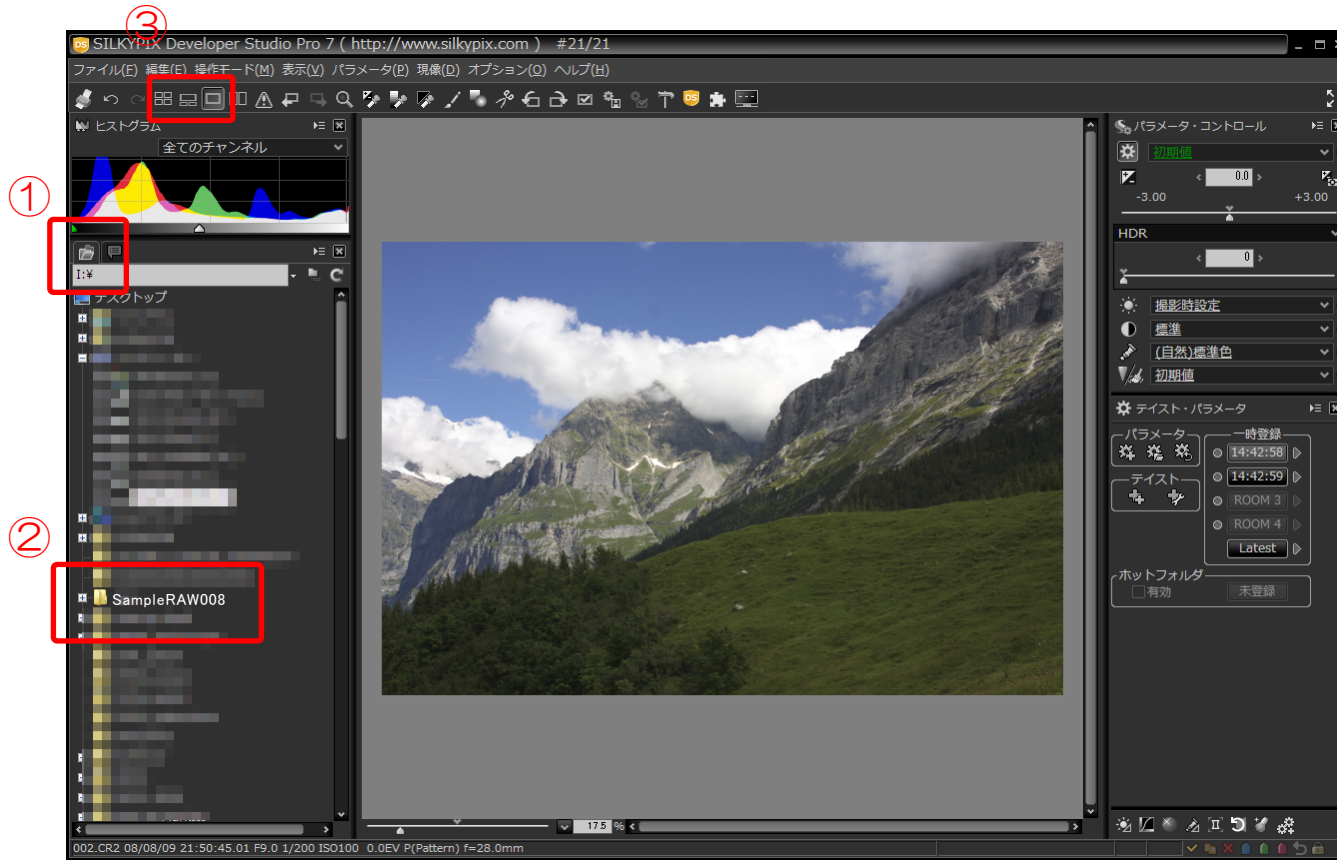


RAW 現像基本調整 (ローキー編)

サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

1. RAW データを開く

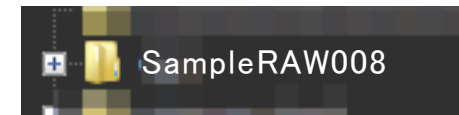


●フォルダーを開く

SILKYPiX はフォルダー単位で RAW データを開くことができます。



①フォルダーツリーアイコンをクリックしフォルダー一覧を表示します。



②フォルダーツリーからダウンロードした RAW データの入ったフォルダーを選択すると開きます。

③表示モードを切り替える

サムネイル表示



フォルダーの中のデータを縮小版で一覧表示します。

コンビネーション表示



縮小表示と拡大表示を同時に表示します。

プレビュー表示

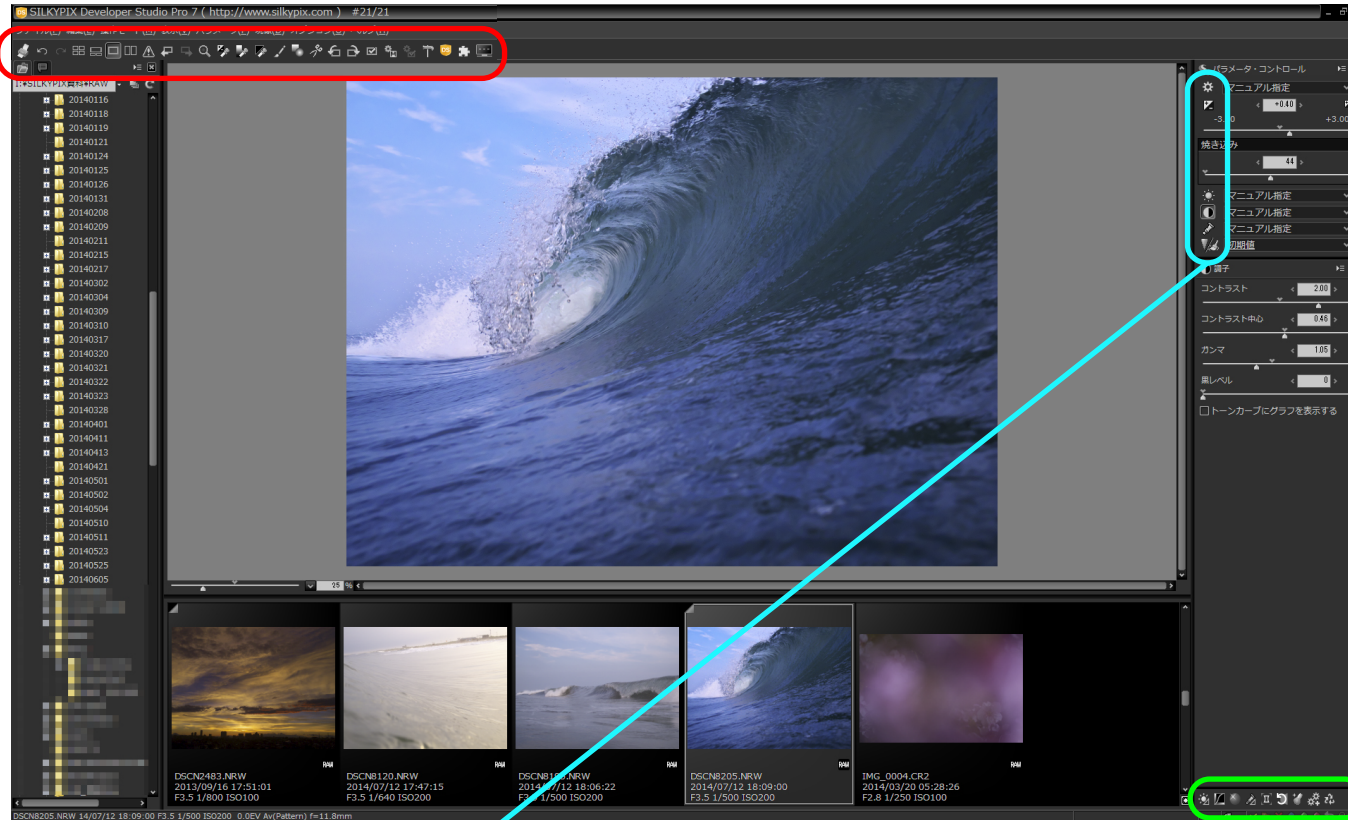


サムネイル表示で選択されたコマを大きく表示します。

SILKYPiX Developer Studio Pro7 を使用した

RAW 現像基本調整（ローキー編） サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

2. 画面構成



ツールバーでよく使う機能

- 印刷
- 画面表示切替
- ハイライト、シャドー警告など
- ゴミ取り
- 部分補正
- トリミング
- 90 度回転
- JPEG または TIFF に変換

メインコントロール

- 露出
明るさの調整
- ホワイトバランス
全体的な色合いの調整
- 調子
コントラストの調整
- カラー
鮮やかさの調整
- シャープ／NR
シャープネスと
ノイズリダクション

サブコントロール

- WB 微調整
色合いの微調整
- トーンカーブ
コントラストの調整
- ハイライトコントローラ
白とびした部分の調整
- ファインカラーコントローラ
特定の色ごとの調整
- レンズ収差補正
歪みや周辺減光の補正
- 回転／デジタルシフト
傾きや遠近感の補正
- 効果
美肌補正とノイズ付加
- 現像設定
AdobeRGB や sRGB の設定
- 編集履歴
任意の作業まで戻る。

RAW 現像基本調整（ローキー編） サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

3. メインコントロール

①

②



①カテゴリ選択アイコン

アイコンを選択すると③のタブページが切り替わります。

②テイスト

あらかじめ登録されている設定をメニューから選んで調整を行います。おおまかな調整をここでやり③のスライダーで微調整できます。



③タブページ

①で選択したカテゴリの詳細な調整を行います。主に「スライダー」と呼ばれるコントロールでつまみを左右に動かして調整を行います。

●スライダーの初期値マーク



データを開いた時の値を示すマークとなります。最初の状態がわからなくなった時の目印になります。



RAW 現像基本調整（ローキー編）

サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

4. 調整前

データを開いたままの状態です。まずここで調整の目標を決めます。



①全体を暖か味のある色調へ

フォトジェニックな雰囲気を強調するため、写真全体の色調をアンバー（オレンジや茶色）へ。

②ハイライトの抜けを良く

ローキーであっても光っている部分は明るく見せたいのでハイライトをもっと明るく。

③中間調～暗部をもっと暗く

中間調から暗部にかけての明るさを暗くすることで被写体の立体感を強調し、暗い中から被写体が浮き出してくる効果を狙う。

④全体を鮮やかに

ローキーで暗くすることにより鈍くなってしまうがちな発色を補う程度に鮮やかに。

今回は「ローキー」と呼ばれる暗部の階調を中心に構成された重厚感や存在感のある写真の仕上げ方です。主に色の濃い被写体や鈍い光の雰囲気を表現する際によく使われます。撮影時の露出補正を暗くし、イメージに近づけ、撮影現場である程度雰囲気を掴んでおくと良いでしょう。

RAW 現像基本調整（ローキー編） サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

5. ホワイトバランス

写真全体を暖か味のある色調へ



補正前



ホワイトバランス：色温度 7000K



この写真は窓から差し込む太陽光で撮影しています。そのため、ホワイトバランスの色温度を少しオレンジ方向へ調整する事で、日差しの暖かさを表現しています。



ホワイトバランス

基本的には照明や環境光による色かぶりを緩和する機能ですが、「光の持つ色やニュアンス」を表現したい場合には完全に補正するのではなく、お好みの色調になるように任意で設定しても良いでしょう。

RAW 現像基本調整（ローキー編）

サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

6. レベル補正（ハイライト）

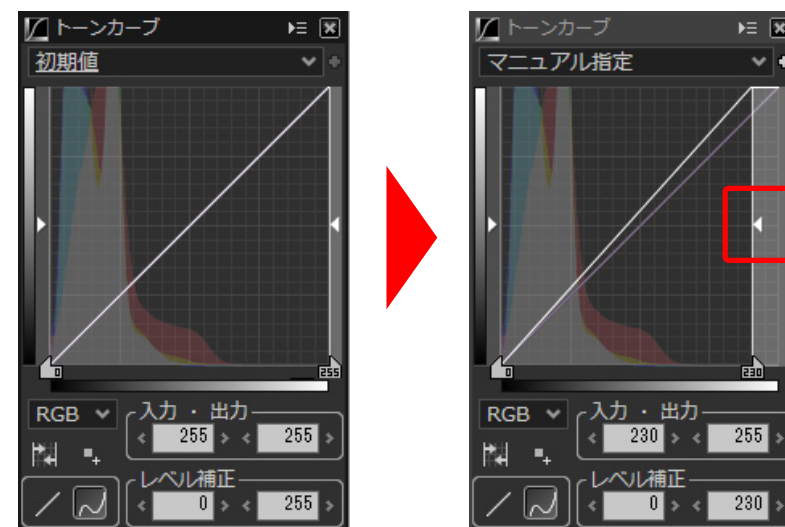
ハイライトの抜けを良くする。



補正前



レベル補正：ハイライト 230



「ローキー」と言っても写真全体が暗いだけだとアンダーな写真に見えてしまう場合があります。そこで、ハイライト（明部）をより明るく強調する事で、暗い中にもメリハリのある雰囲気を出すことができます。



露出補正とレベル補正

ハイライトの明るさは露出補正でも調節することができます。ただ、その場合写真全体の明るさも変わるため、この写真では暗部も明るくなってしまいます。レベル補正では暗部の明るさをあまり変化させることなくハイライト付近の明るさを調節できます。今回はローキーな仕上げなのでレベル補正で暗部は暗くしたままハイライトを明るく表現しています。

RAW 現像基本調整（ローキー編） サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

7. トーンカーブ（中間調の補正）

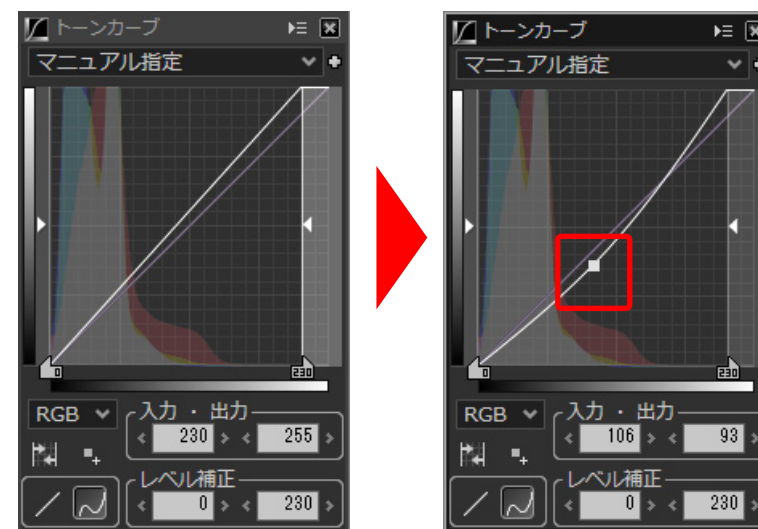
中間調～暗部をもっと暗く補正



補正前



トーンカーブ：中間調を暗く



暗い中から被写体が浮かび上がっている雰囲気
をより強調するためにトーンカーブの真ん中を
下げ、中間調から暗部にかけての明るさを
暗く補正します。トーン全体のまとまりが暗く
いわゆる「ローキー」の雰囲気が出る所が理想
です。



ローキーとは？

主に暗部から中間調の明るさで構成された写真の事です。暗い雰囲気の中でも立体感や光の雰囲気を損なわないように仕上げるのがポイントです。

RAW 現像基本調整（ローキー編）

サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

8. 彩度の調整

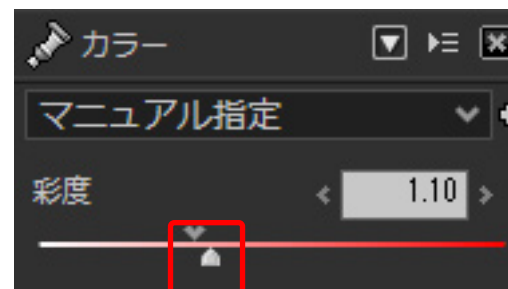
暗くすることにより鈍くなってしまうがちな発色を補う程度に鮮やかに。



補正前



カラー：彩度 1.10



赤などの強い色は暗く補正する事で黒っぽく濁る場合があります。その濁りを解消する為に彩度を少しだけ高く設定して、暗い中でも被写体が鮮やかに見えるように調整しました。



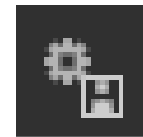
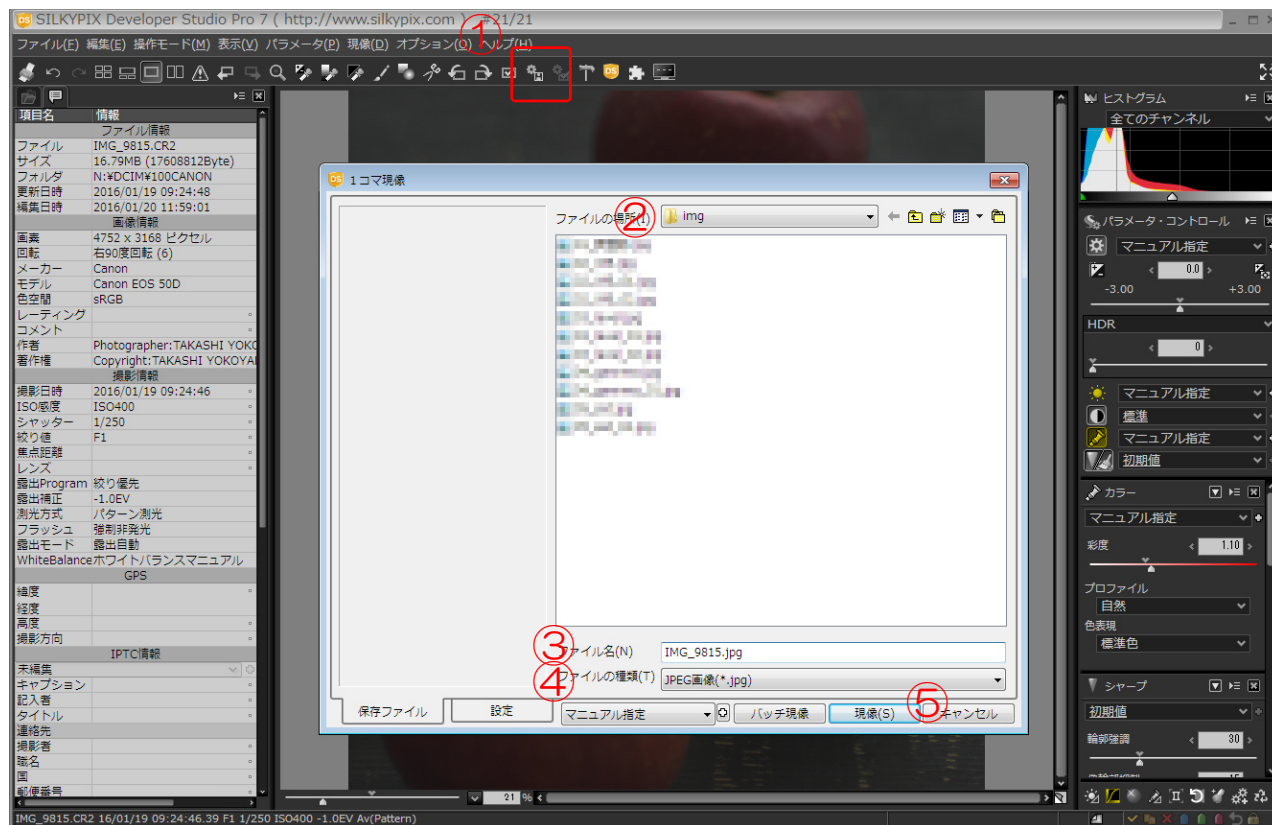
彩度の上げすぎには注意

彩度は鮮やかさを調整するのに使用します。しかし、被写体によっては彩度を高め過ぎると絵の具で塗ったようにべったりとした仕上がりとなり、階調感を損なう場合があるので、それに気を付けながら使用するのがおすすめです。

RAW 現像基本調整 (ローキー編) サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

9. 現像する

JPEG や TIFF に書き出す



① 1 コマ現像ボタンを押すと保存のダイアログが表示されます。

② ファイルの保存場所を選択します。

ファイル名(N) 002.jpg

③ ファイル名を変更する場合は入力します。

ファイルの種類(T) JPEG画像(*.jpg)
JPEG画像(*.jpg)
TIFF画像(*.tif)

④ ファイル形式で JPEG か TIFF を選択します。

現像(S)

⑤ 現像ボタンを押すと RAW データから JPEG または TIFF の変換が始まります。



現像とは？

SILKYPiX では RAW データから JPEG や TIFF に変換する事を「現像」と呼んでいます。TIFF は 8bit または 16bit が選択できます。

SILKYPIX Developer Studio Pro7 を使用した

RAW 現像基本調整（ローキー編） サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

10. 調整前／調整後

暗い中にも立体感や質感を感じるローキーな仕上がりになりました。

